

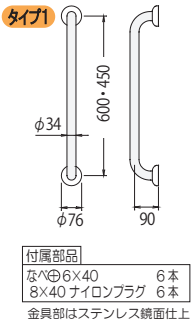


# トイレ・洗面手すりの取扱説明

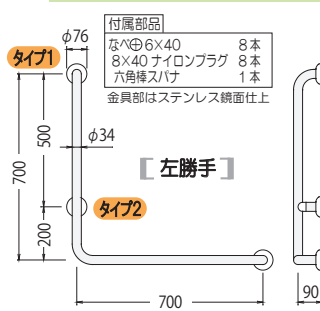
## 取扱説明

## トイレ・洗面手すり

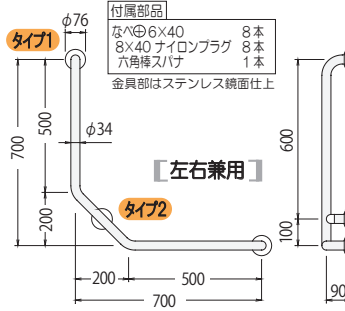
No.850 丸棒ニギリバー



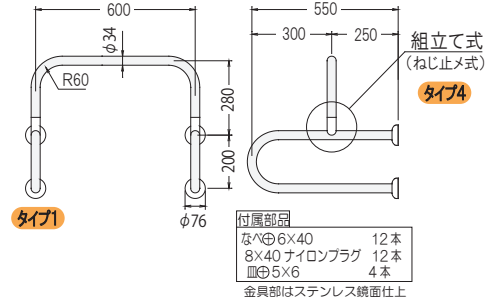
No.851L L形丸棒ニギリバー(左)  
 No.851R R形丸棒ニギリバー(右)



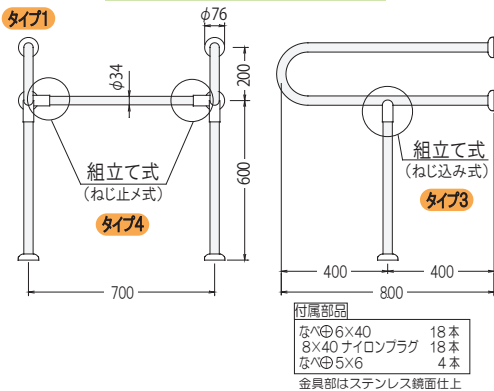
No.852 D形丸棒ニギリバー



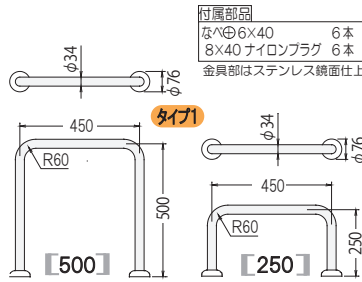
No.857 D形丸棒手すり【小便器用】



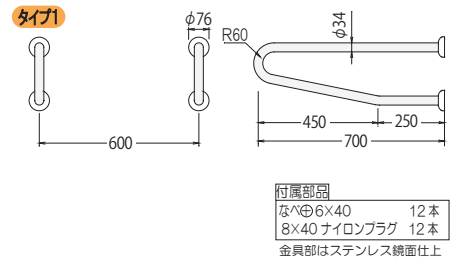
No.858 C形丸棒手すり【洗面器用】



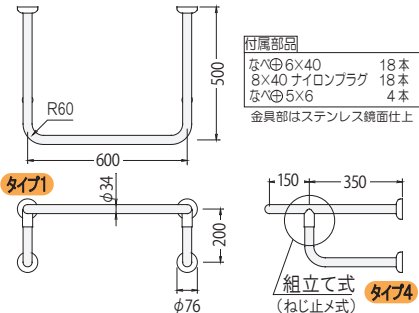
No.862 丸棒手すり【和風便器用】



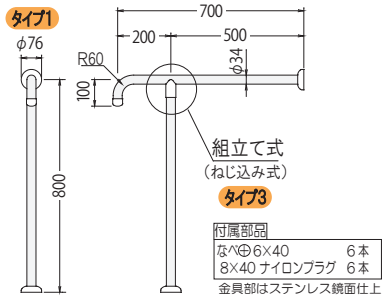
No.863 C形丸棒手すり【腰掛便器用】



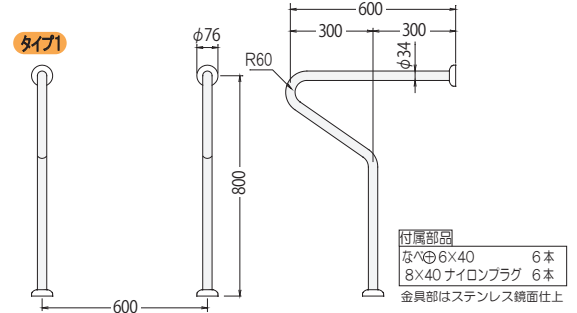
No.864 D形丸棒手すり【洗面器用】



No.865 T形丸棒手すり【腰掛便器用】

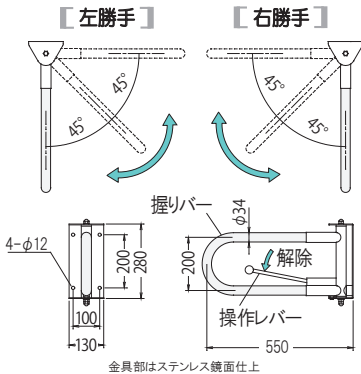


No.866 R形丸棒手すり【洗面器用】



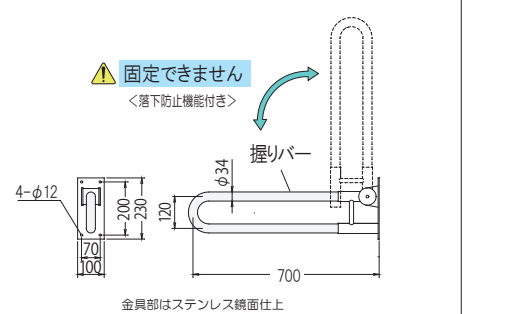
No.855L 可動式手すり(左)  
 No.855R 可動式手すり(右)

- ⚠ 操作レバーを下げると、ロックが解除され、操作レバーを下げた状態で握りバーを使用したい位置にゆっくりと動かして下さい。
- ⚠ 握りバーは45°ごとに固定できます。使用したい位置にして操作レバーを離すと、操作レバーが戻り固定されます。必ず握りバーが固定されたことを確認して下さい。



No.856 はね上げ式手すり

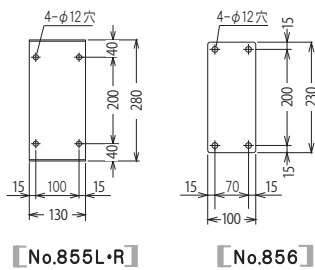
- ⚠ 上げ下げの操作は、握りバーを持ってゆっくり動かして下さい。
- ⚠ 握りバーは、手をはなしても落下しませんが、固定できません。水平位置でご使用下さい。



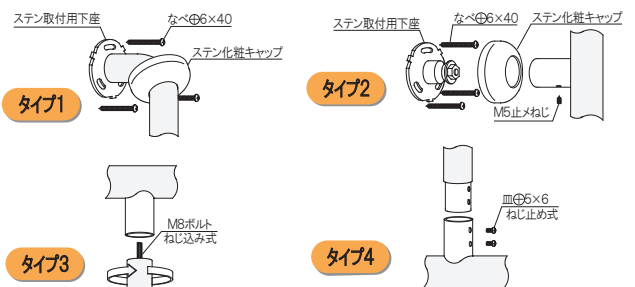
\* 取付用部品は付属していません。(建築構造に合った施工法と専用の固定金具にて確実に取付けて下さい)

### 取付ベース詳細

- No.850
- No.851L・R
- No.852
- No.857
- No.858
- No.862
- No.863
- No.864
- No.865
- No.866



### 取付詳細図



# 室内用補助手すりの取扱説明

## どこでも手すりについて

### 取付け穴の説明

- 付属部品 A4×30, 6×30ナイロンプラグ用取付け穴(φ5)

※取付けには下記の(一般的な壁に取付ける、浴室のタイル面に取付ける)を参照下さい。

- ユニットバス専用取付け穴(φ7)

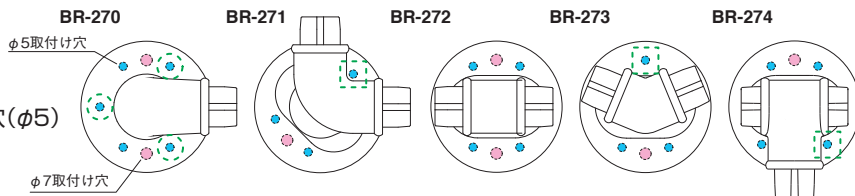
※ユニットバスの取付けには ANC-900 メカバ スナット(P66)をご参照下さい。

### 推奨取付け穴

※BR-270どこでもブラケットエンド、φ5取付け穴5箇所のうち2箇所は使用しません。下地により取付け穴位置をお選び下さい。

### 拡張加工必要取付け穴

※BR-271・BR-273・BR-274でメカバスナットをご使用の際はφ6.5~φ7.5の穴をあけて下さい。(BR-274は左右いずれか一方)

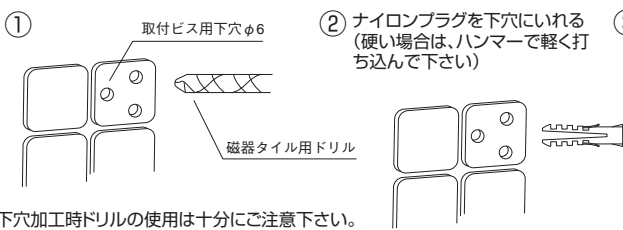


### 一般的な壁に取付ける

(手すり取付けについて) 下記を参照下さい。

### 浴室のタイル面に取付ける

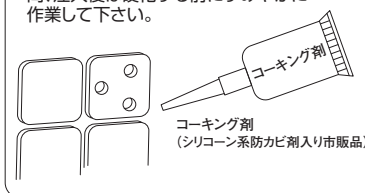
浴室のタイル面に取付けられる場合、堅固な下地を確認した上で、付属のビスとナイロンプラグとの併用をおすすめします。



※下穴加工時ドリルの使用は十分にご注意ください。ドリルの先端が滑りタイル面のヒビ割れまたは、破損の原因にもなりかねます。

### (参考)

全下穴とナイロンプラグのビス穴に水対応のため、注入する事をお奨めします。尚、注入後は硬化する前にすみやかに作業して下さい。



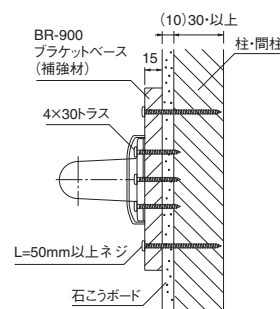
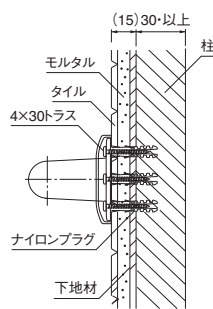
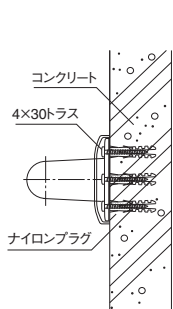
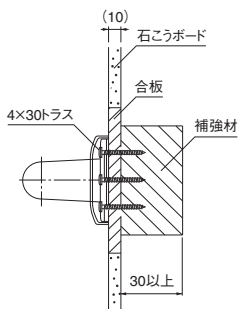
### 石こうボード壁

### コンクリート壁

### タイル+モルタル+木下地

### 石こうボード壁+後付け補強材

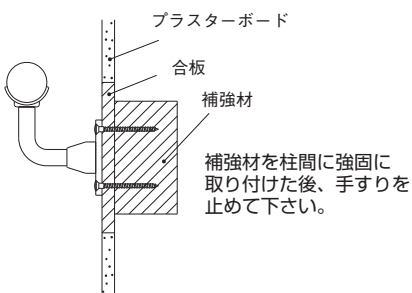
### 下地施工例



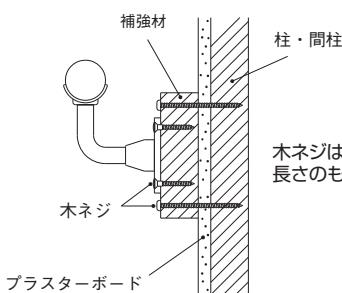
この方法はあくまで一般的な方法となります。取付面の材質や厚み建築構造により、付属ビスでは十分な強度を得る事ができない場合があります。その際は、販売店又は専門施工店にご相談下さい。ユニットバスへの後付けには、別途弊社に御相談下さい。

## 手すり取付けについて

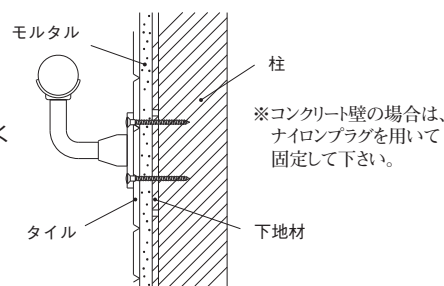
- 下地に補強材を入れて下さい。



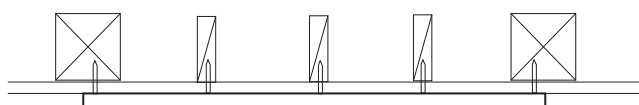
- 表側に補強材を入れて下さい。



- タイルの場合、木ネジは柱もしくは補強材に十分届くようにして下さい。



## ブラケットベースについて

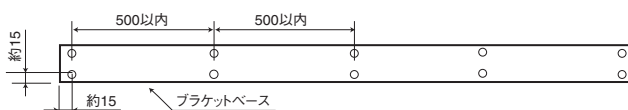


※ベース材の割れ防止の為に、取付ビス用下穴加工を行って下さい。

- ① 手すり設置場所の壁裏の柱の位置及び状態を確認し、使用するベース材の長さ・取付けネジの位置を決めます。

- ② ベース材を必要な長さに切断します。切断面にバリや角が出た場合は、紙ヤスリ等でなめらかに仕上げてください。(別売にて端部用ブラケットベースキャップもとり揃えております。)

## 取付け穴位置目安



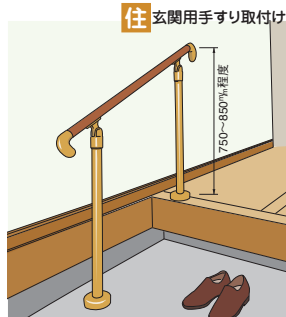
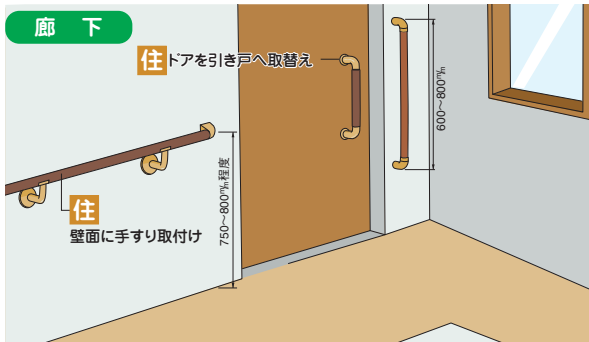
- ③ ベース材にガタつきがないか確認してください。ベース材と壁面との間にもガタつきがないかチェックし、ガタつきがあれば補修してください。その上に手すりをしっかりと取付けてください。



# 室内用補助手すりの取扱説明

## 手すりの設置例

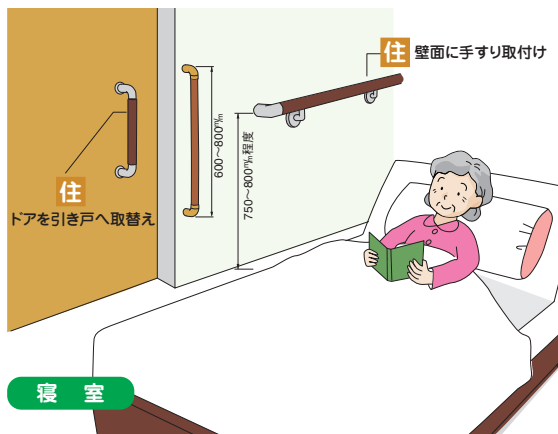
住：住宅改修



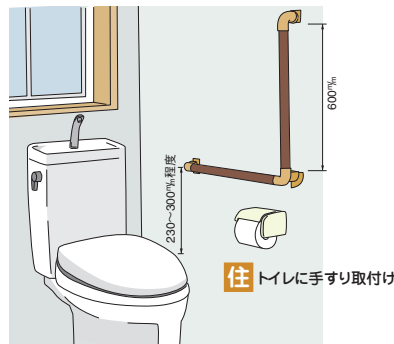
※歩行補助手すりは腰より若干低めの位置（杖の高さ）に設定するのが基本です。  
※縦手すりは、手すりの中央が肩と肘の中間の位置になるように設定するのが基本です。

※階段手すり施工時は降りるときを重要視して、少し高めに設定するのが基本です。

※上がり框に設置する縦手すりは、肩と肘の中間を、フロアに立った時に手すりの上から1/3、土間に立った時に下から1/3の高さに合わせて設定するのが基本です。



## トイレ



上記の数値は取り付けの目安です。住宅改修の際には実際に手すりをご使用になれる方の身体状況に合わせて、使いやすい位置を設定して下さい。

## 施工上の注意

### どこでもグリップについて

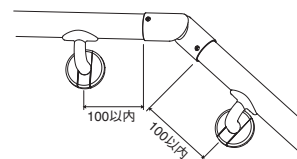
- ・既存の手すりに後付けで簡単に取付けられます。
- ・目的以外の用途には使用しないで下さい。
- ・取付けネジはしっかり締め込んで下さい。ナットがとも回する時は指でナットを押さえて下さい。
- ・取付けは手締めドライバーでおこなって下さい。
- ・BR-65・BR-66を浴室でのご使用は滑り易い状況もありますので、ご注意下さい。
- ・BR-63・BR-64は屋外でもご使用になれます。
- ・取付ける手すりの材質によって十分な保持力が得られない場合があります。その際には両面テープを併用するなどしてしっかり取付けて下さい。

(P135 掲載商品)



### 自在ジョイント接続金具について

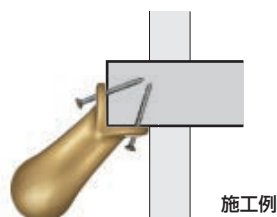
※自在ジョイントは、丸棒を壁面（ブラケット）に固定する前にコーナー部の角度やセンターに合わせて取付けて下さい。



※自在ジョイント接続金具の両端から100ミリ以内の位置に、必ずブラケットを堅固な壁面に設けて下さい。手すりが外れたり折れたり折れてしまうことで、けがや重大事故につながる恐れがあります。

### 出隅ブラケットの施工時の注意点

図のように付属ネジにて堅固な木製枠材等に固定してください。その際、ネジの交差する位置が可能な限り深くなる様に、ネジを打ち込む向きに注意してください。BR-664 スリムブラケット出隅止の場合は、浅い位置でネジが交差すると、枠材が割れる恐れがありますので、ご注意ください。



### ブラケットの取付け間隔について



⚠️ ブラケットの取付間隔は35φ手すりでは910mm/m以内  
32φ手すりでは600mm/m以内（縦使用では800mm/m以内）として下さい。

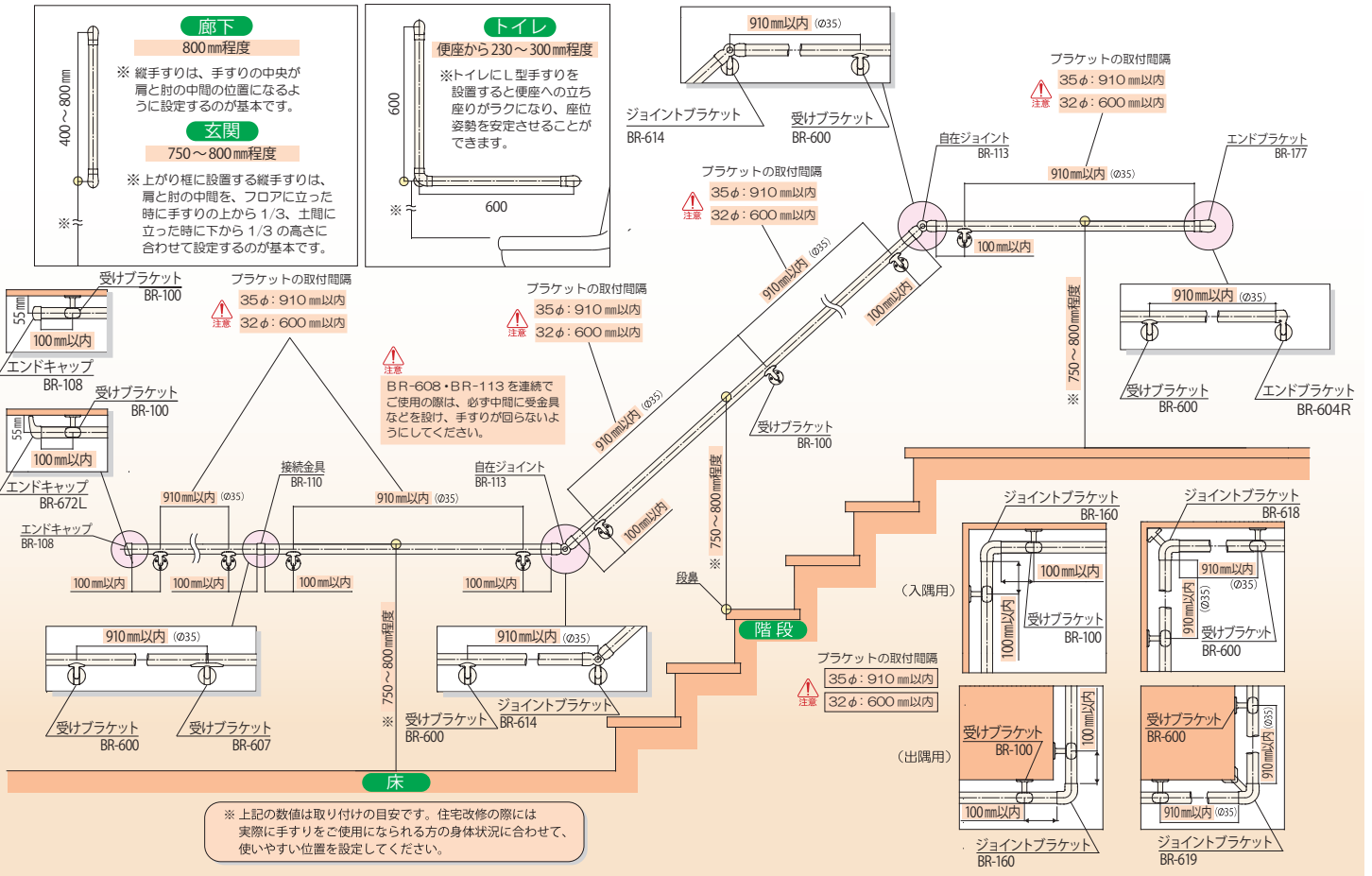
### 標準下穴寸法

A3タッピンネジ (φ2.0)	6×30ナイロンプラグ (下穴φ6)
A3.5タッピンネジ (φ2.5)	8×40ナイロンプラグ (下穴φ8)
A4タッピンネジ (φ3.0)	
A6タッピンネジ (φ4.0)	

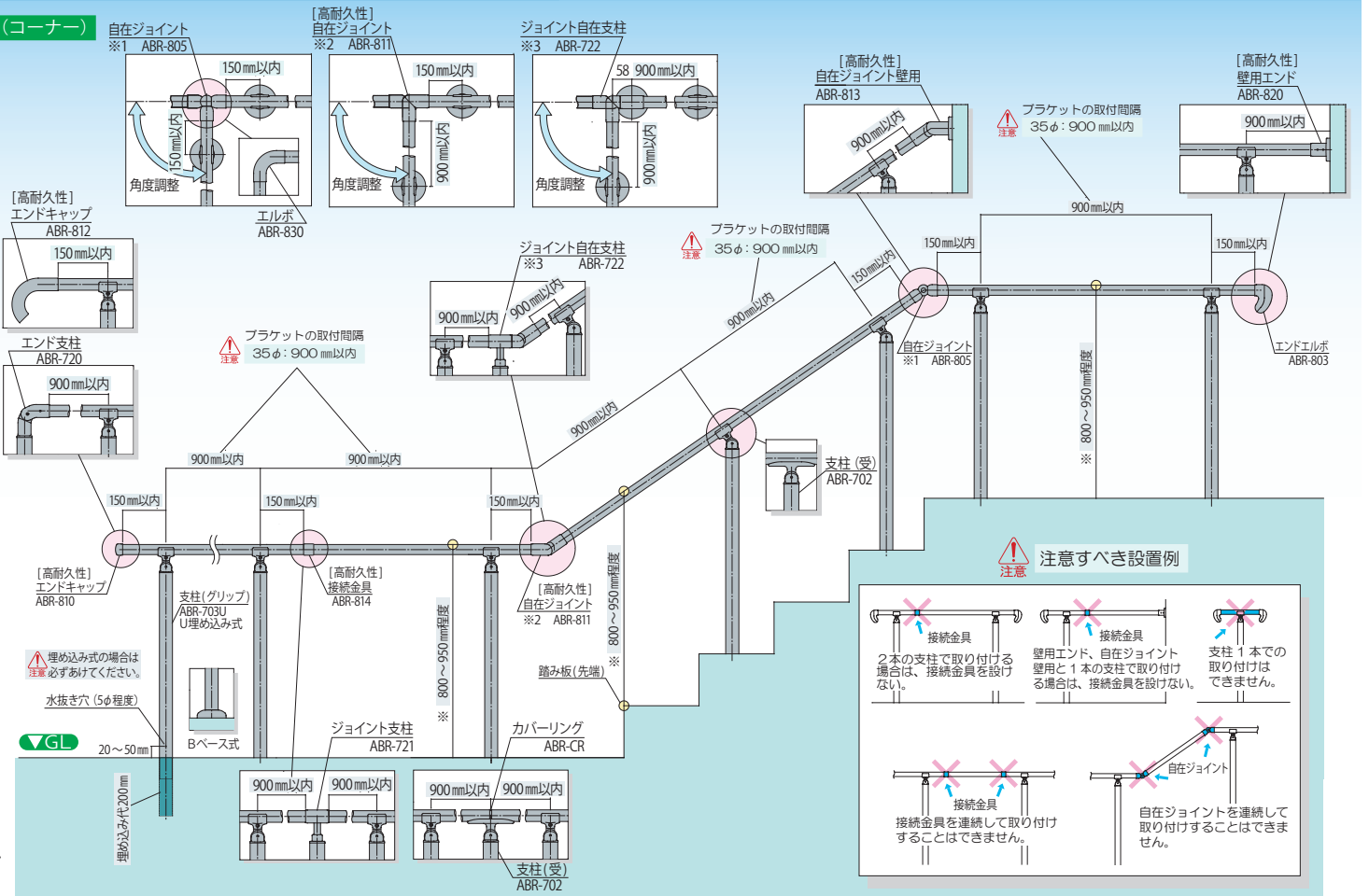


# 取扱説明

## 室内用補助手すり（ブラケット）設置条件



## 住宅用アプローチ手すり設置条件



# スマートラインシステム施工説明



Pシリーズ

室内用



7シリーズ

室内用



Aシリーズ



## 【スマートライン支柱】

BR-735K  
BR-735G  
BR-735HK



Pシリーズ

## 【スマートラインレール】

BR-735R



Pシリーズ 7シリーズ

## 【カバーコード】

BR-710



Pシリーズ Aシリーズ



■スマートライン仕様ブラケットのデザインが選べます。  
※屋外でご使用の際は屋外用ブラケットをお選びください。

## 【スマートライン支柱】

BR-735S  
BR-735SH



7シリーズ

## 【スマートラインレール】

BR-735R



7シリーズ Pシリーズ

## 【カバーコード】

BR-720



7シリーズ



■7シリーズブラケットよりお選びください。  
※屋外でご使用の際は屋外用支柱をお選びください。

## 【スマートライン支柱】

BR-735AK



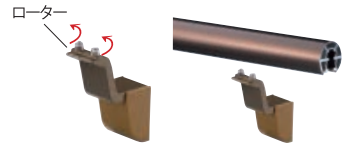
Aシリーズ

## 【カバーコード】

BR-730



Aシリーズ Pシリーズ



■スマートライン仕様ブラケットのデザインが選べます。  
※屋外でご使用の際は屋外用ブラケットをお選びください。

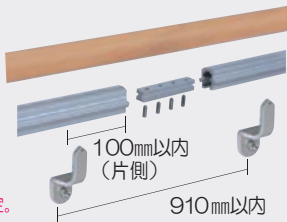
## ジョイント

Pシリーズ 7シリーズ Aシリーズ

直線部をストレートジョイントで接続した場合  
ブラケット・支柱の取付ピッチは910mm以内。

### 【ストレートジョイント】

BR-722  
BR-723



※ストレートジョイントの取付けは、  
必ず左右のレール2箇所ずつビスで固定。  
※レールの接続部から片側に1箇所  
100mm以内にブラケットを取付けて下さい。

## カバーリング

Pシリーズ 7シリーズ Aシリーズ

支柱の連結時に後から取り付け出来ます。

### 【カバーリング】

BR-754  
BR-756  
BR-707C



スリムにジョイント。

### 【カバーリング】

BR-755



## コーナー用レール

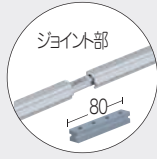
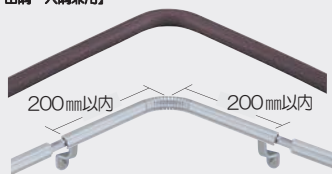
### 連続コーナー部品

Pシリーズ 7シリーズ

コーナー用レールの中心部から200mm以内に  
ブラケット、又は支柱を取付けて下さい。 ※ジョイント部には取付け出来ません。

### 【コーナー用レール 出隅・入隅兼用】

BR-736



専用の工具を使わず簡単に曲げることが出来ます。  
クランプ等で片側を固定することでより簡単に曲げ  
ることが出来ます。

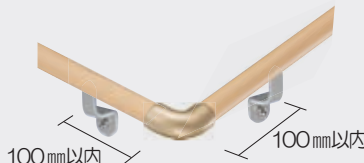
## コーナーエルボ・自在エルボ

Pシリーズ 7シリーズ Aシリーズ

コーナーエルボの端部から100mm以内にブラケット、  
又は支柱を取付けて下さい。

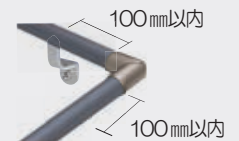
### 【スマートラインコーナーエルボ 出隅・入隅兼用】

BR-750



### 【スマートライン自在エルボ 出隅・入隅兼用】

BR-751



**ポイント!**  
角度調整が出来ます。

## 上り・下り用レール

### 連続コーナー部品

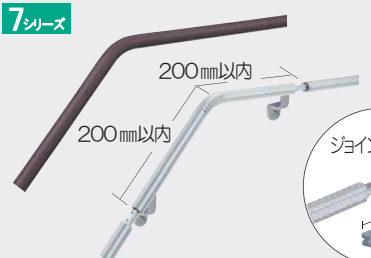
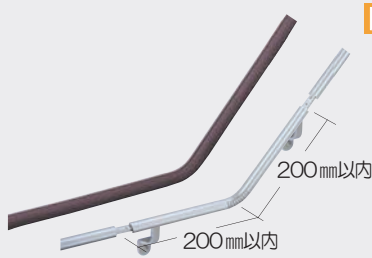
Pシリーズ 7シリーズ

上り階段、下り階段用レール・自在エルボの中心部から  
200mm以内にブラケット、又は支柱を取付けて下さい。

※ジョイント部には取付け出来ません。

### ポイント!

専用の工具を使わず簡単に曲げることが出来ます。  
クランプ等で片側を固定することでより簡単に曲げる  
ことが出来ます。



Pシリーズ 7シリーズ

## エンド用エルボ・キャップ

エンドエルボ・エンドキャップは取付け端部より、  
100mm以内にブラケット、又は支柱を取付けて下さい。

### ポイント!

縦・横使いが出来ます。

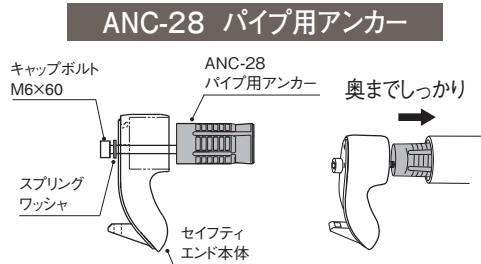


Pシリーズ 7シリーズ Aシリーズ

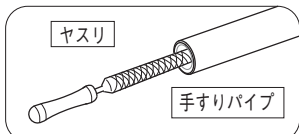
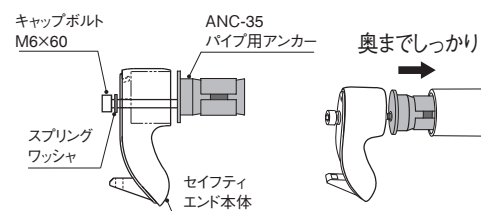
# 住宅用アプローチ手すりの取扱説明

## ABR-803 セイフティエンド取付方法

- ①パイプ用アンカーを同梱のキャップボルトM6×60で仮止めします。
  - ②セットされたアンカーをパイプの奥までしっかりと差込みます。
- ※ANC-28パイプ用アンカーは必ずセイフティエンド本体に仮止めして手すりパイプに挿入してください。単体で挿入されますと取り出せなくなる事があります



### ANC-35 パイプ用アンカー

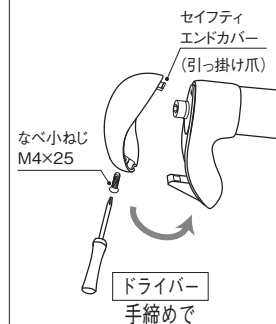


※手すりパイプ内側のパイプ溶接跡をヤスリ等で除去してください。パイプアンカーの挿入がスムーズになります。

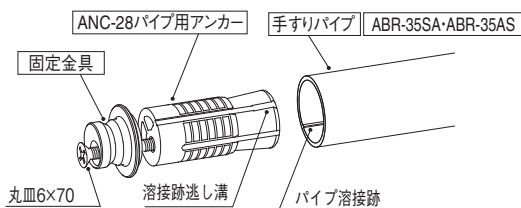
- ③ギュギュとなるまでしっかりと締付けます。(ANC-28パイプ用アンカーに六角棒スパナは付属しません。)



- ④セイフティエンドカバーの上端の引っ掛け爪をブラケット本体の溝に引っ掛け、なべ小ねじM4×25を手締めにて固定してください。

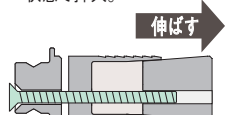


### 固定金具仕様の取付方法

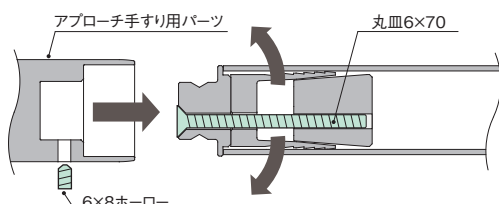


※溶接跡をヤスリ等で除去してください。パイプ用アンカーの挿入がスムーズになります。

- ①パイプ溶接跡を逃し溝に沿わせ手すりパイプに挿入して下さい。※パイプ用アンカーを伸ばした状態で挿入。



- ②丸皿6×70ビスを締め込みパイプ用アンカーを固定。※ガタツキが無いように強固に固定。



＜パイプ用アンカーが中で広がりパイプに固定＞

- ③アプローチ手すり用パーツを取付け、6×8ホーロービスを付属の六角スパナで固定して下さい。

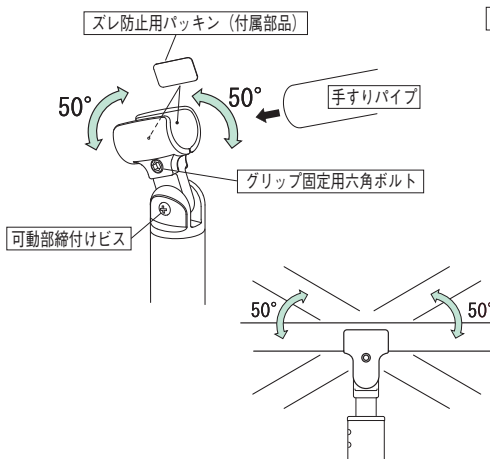
## 手すりパイプ・グリップタイプ支柱の取付け方法

- ①支柱グリップ内側にズレ防止用パッキンを貼り付けてください。(アルミグリップ)
  - ②付属の六角レンチでグリップ固定用の六角ボルトを緩め、丸棒を通した後、六角ボルトを締め付けてください。
- 注意**  
グリップ固定用六角ボルトを緩めすぎるとグリップが外れる可能性があります。
- ③グリップの角度を調整し可動部締め付けビスを締め付けてください。
  - ④最後にグリップ固定用六角ボルトと可動部締め付けビスがしっかり締め付けられていることを確認してください。

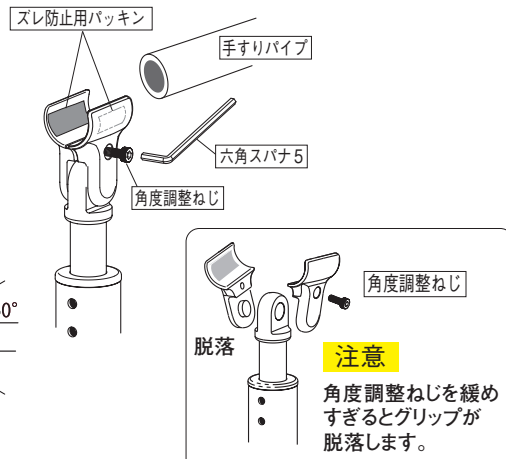
**注意**

グリップ固定用六角ボルトの締めすぎに注意してください。ねじが効かなくなる可能性があります。

### アルミグリップ



### 真ちゅうグリップ

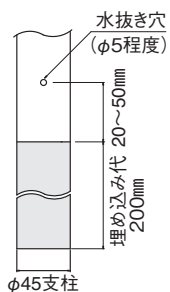
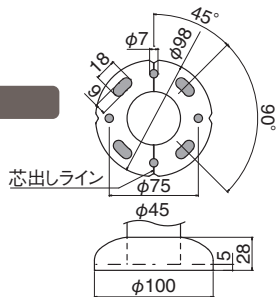


**注意**

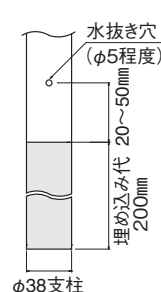
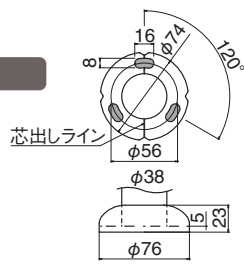
角度調整ねじを緩めすぎるとグリップが脱落します。

## アプローチ手すり用ベース・支柱埋め込み詳細図

### 支柱φ45

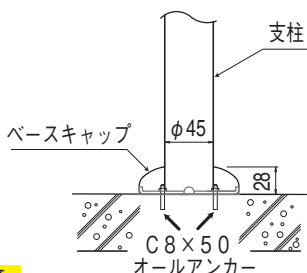


### 支柱φ38



## ベースプレートタイプ施工

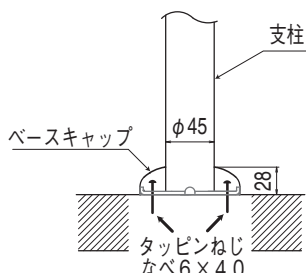
### コンクリート下地の場合



#### 注意

●支柱を取付ける部分には、100mm以上のコンクリート下地が必要となります。100mm未満の際は、十分な強度を得ることが出来ないうちがあります。(埋込み式タイプの支柱をお選びください。)

### 木質下地の場合

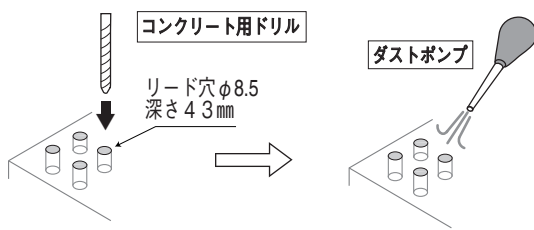


●スロープ面には施工できませんのでご注意ください。(埋込み式タイプの支柱をお選びください。)

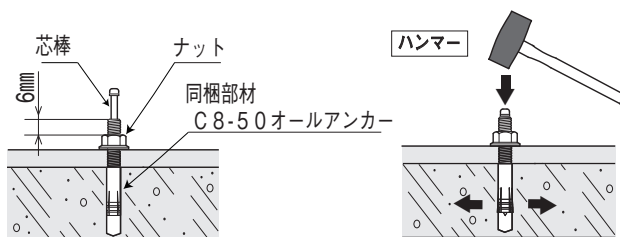
●支柱を取付ける部分には、40mm以上の木質下地が必要となります。40mm以上の下地が確保できない場合は取付けできませんのでご注意ください。

### コンクリート下地施工

① 芯出しをした後、φ8.5mm、深さ43mmのオールアンカー用リード穴4箇所を開けます。ダストポンプなどを使用し、リード穴内の切粉を除去してください。



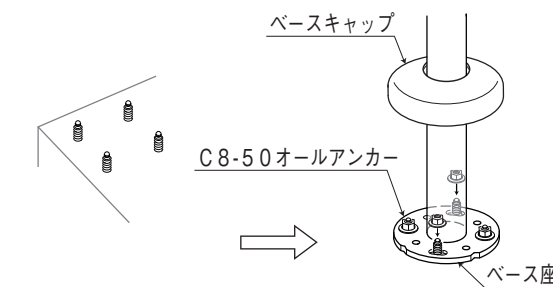
② 同梱のナットをオールアンカー上端にねじ込み、リード穴に軽く打ち込みます。



#### 注意

オールアンカー上端より、6mmの位置までナットをねじ込みます。(ベース座厚 t=5)

③ オールアンカーの芯棒が本体の頂部に接するまで確実にハンマーで打ち込んでください。



④ ナットを外し、ベース座のアンカー取付け穴オールアンカーを通し、ナットをスパナ、モンキーレンチを使用して仮止めしてください。

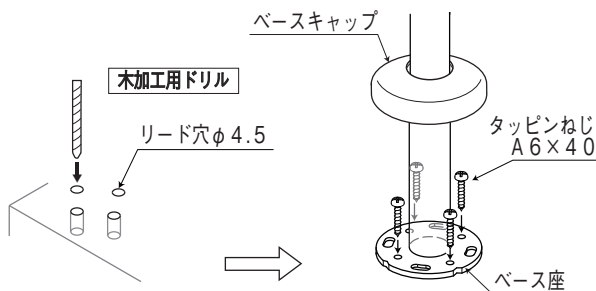
### 木質下地施工

① リード穴加工φ4.5mmを4箇所行います。

② 同梱のタッピングねじA6×40で固定します。

#### 注意

40mm以上の木質下地が確認できない場合は取付けできません。

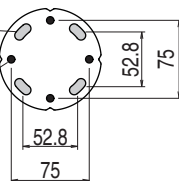


#### 注意

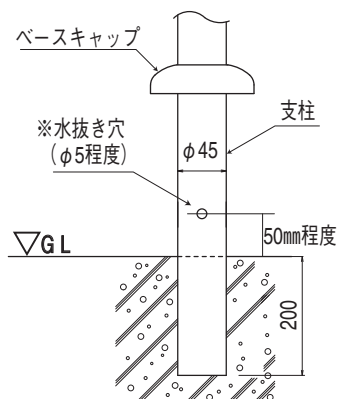
コンクリート下地と木質下地への取付では、取付け穴が変わります。

【コンクリート下地用取付穴 4箇所】

【木質下地用取付穴 4箇所】



## 埋込みタイプ施工



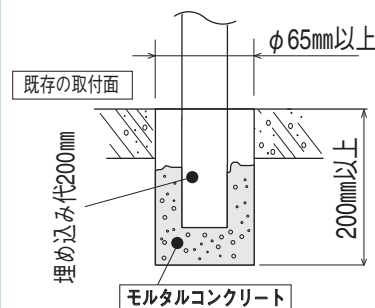
※支柱埋込みタイプを施工する場合は、GLより支柱上部にφ5程度の水抜き穴をあけてください。

- ① 支柱の埋込み位置のセンターに印をつけます。
- ② コアドリルを使用し、センターに対し垂直に穴を開けます。(支柱埋込み代は200mmです)
- ③ 支柱の埋込み部を穴に入れ、モルタルやコンクリート等を半分程度流し込んでください。ベースキャップは先に支柱にセットしておいてください。

#### 注意

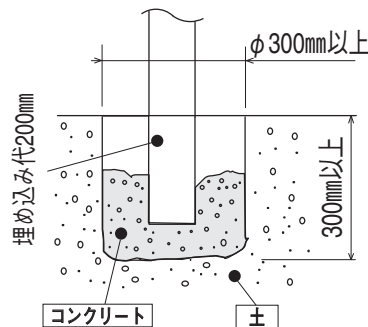
- ④ 支柱が垂直になっている事を確認し、コンクリートが固まるまで添え木等、固定できるもので支えてください。

### 取付け面がコンクリートの場合



最低φ65以上、深さ200mm以上の穴を開けます。

### 取付け面が土の場合



最低φ300以上、深さ300mm以上の穴を開けます。

#### 注意

砂地の場合は、確実な固定ができない恐れがありますので施工できません。



# シロクマの強度基準について

HS : Handrail Strength Standard

HS1	水平荷重	60kg/910mm(32φは600mm)
	鉛直荷重	(ベターリビング:動作補助手すり基準に相当)
HS2	水平荷重	120kg/910mm(32φは600mm)
	鉛直荷重	(ベターリビング:歩行補助手すり基準に相当)
HS3	水平荷重	120kg/910mm(32φは600mm)
		180kg/ブラケット単体
	鉛直荷重	120kg/910mm(32φは600mm)
		180kg/ブラケット単体
耐久性能 (繰返し荷重特性)	60kg/910mm:10万回(32φは600mm)	
HS4	水平荷重	120kg/910mm(32φは600mm)
		300kg/ブラケット単体
	鉛直荷重	120kg/910mm(32φは600mm)
		300kg/ブラケット単体
	耐久性能 (繰返し荷重特性)	120kg/910mm:10万回(32φは600mm)

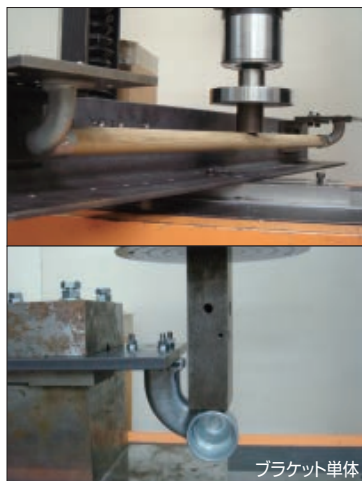
※1 上記の荷重値は、(財)ベターリビング優良住宅部品性能試験方法書「歩行・動作補助手すり」による水平・鉛直荷重試験を参考に当社が試験を行い測定した強度です。  
 ※2 動作補助手すりは立ち座りのため握って使用する手すりです。主に浴室、便所、洗面所、玄関に用いられます。  
 歩行補助手すりは歩行のため手を滑らせながら使用する手すりです。主に廊下や階段に用いられます。

### 鉛直荷重試験



ブラケット単体

### 水平荷重試験



ブラケット単体

### 耐久性能試験



※シロクマ強度基準の各試験では手すり材を集成材丸棒:スパン910mm(32φは600mm)で実施しました。但し、HS4の耐久性能については手すり材をステンパイプ塩ビコーティング丸棒:スパン910mmで実施しました。

※シロクマ製の室内用補助手すりはすべてHS1以上の強度基準に適合しております。より強度を必要とする場合は、HS3・HS4強度基準の製品をご使用下さい。

### (参考) (財)ベターリビング優良住宅部品認定基準(歩行・動作補助手すり)

区分		備考			
		用途・素材	強度(ユニットの剛性)		
補助手すり	廊下・階段用	室外/室内	廊下・階段等	アルミ合金・ステンレス・合成樹脂・その他	水平荷重:120kgf/スパン 鉛直荷重:120kgf/スパン (中央部に荷重)
		室内		木・アルミ合金・ステンレス・合成樹脂・その他	
	便所・洗面所用	浴室用	便所・洗面所・浴室等	アルミ合金・ステンレス・合成樹脂・その他	水平荷重:60kgf/スパン 鉛直荷重:60kgf/スパン (取付部の一端部及び中央部に荷重)
		洗面所用	便所・洗面所等	木・アルミ合金・ステンレス・合成樹脂・その他	

## 抗菌処理



暮らしの中の有害な細菌の活動を抑え、増殖を抑制します。

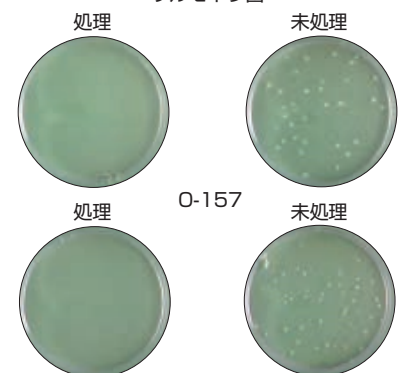
近年、健康で快適な生活への志向と共に衛生や安全管理に対する要求が高まりを見せております。  
 白熊印製品では、このご要望にお答えできる様に手で触れる製品表面への抗菌処理を標準化しつつ、抗菌処理製品を拡げております。  
 人体への安全性が高く、適用範囲が広い無機系抗菌剤を採用しており、効果の持続性も優れております。

### 注意事項

- ① 抗菌商品の外観は半艶程度となるものもあります。
- ② 抗菌処理製品は表面に汚れや油等が付着した場合、その効果が低下します。  
定期的な拭取りを行って下さい。
- ③ 抗菌処理品はその表面の菌の増殖抑制効果、減菌効果はありますが、殺菌の効果はありません。

尚、他の白熊印製品の抗菌処理についてはご相談、お問い合わせください。

サルモネラ菌



保存24時間後の生菌数比較





# 室内用補助手すりの取扱いと公的助成制度について

## 製品の機能が十分に発揮される様、正しく取付けて下さい。



注意

- 注意事項を無視して誤った取扱いをすると、重大な結果(傷害・物的損害)に結びつく可能性があります。
- いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。
- ブラケット・手すり丸棒・ブラケットベース等は当社製品を組合せてご使用下さい。
- 他社製品との組合せは強度不足を招くことがありますのでご注意下さい。



注意

### 安全上の注意

- ぶら下がったり、上に乗ったり、強く押し引きするなど、故意に強い衝撃を与えた場合、手すりの破損・壁面から抜け落ちる恐れがあります。万が一、手すりにガタツキが出た場合は、直ちに使用を止め、取付業者または販売店にご連絡下さい。
- 屋外や浴室などの、水が掛かったり湿気が多い場所には設置しないでください。また、下地及び製品を水に濡らさないでください。部材が腐食することで製品及び手すりが脱落・破損する恐れがあります。
- 弊社ではより強度、耐久性の高い手すり部材も取り揃えておりますので、ご使用になられる方の状態や使用場所に応じて製品をお選びください。
- 手すり取り付けビス等が緩んでくる場合がありますので、緩んだ場合はドライバー等でしっかり締めなおして下さい。



注意

### 施工上の注意

- 手すりの取付けは、下地の強度や状態が確認できない場合には施工しないで下さい。取付が不安定になることで手すりが抜け落ちる恐れがあります。施工時には、必ず平らで堅固な下地に市販の壁面センサーやプッシュ式針等を使い構造体(柱・間柱・胴縁)に付属取付ネジを用いて確実に取付けて下さい。
- 壁全体に強度がない場合(石こうボード壁・在来壁・コンパネ壁など)は、ブラケットベース等の補強材を柱・間柱・胴縁に固定して、その補強材に付属取付ネジを用いて確実に取付けて下さい。
- 手すり丸棒材をブラケットに固定する際は付属ネジに対応する下穴をあけ、確実に施工してください。(別記[標準下穴寸法]参照)

### 取扱い上の注意

- 製品に硬い物や重たい物、鋭利な物をぶつけたり、落とさないで下さい。製品が傷ついたり破損する恐れがあります。
- 長尺物につきましては、雨水のかからない、水平な場所に保管して下さい。立てかけたままでの保管は、反り・変形の原因となります。
- 手すりを壁面に取り付ける際は、ブラケットや丸棒材が歪んで取付けられることが無いよう注意して施工してください。手すりが歪んだ状態で施工されると、ブラケットに無用の力が加わり経時の劣化を促進させて破損につながる可能性があります。たいへん危険です。

### お手入れ方法

- 通常のお手入れは、きれいな柔らかい布で拭き拭きするか、固く絞った布で水拭きして下さい。汚れがひどい際は、薄めた中性洗剤をしみこませた柔らかい布で拭き、その後、水拭きしてから乾いた布で、水分は完全に拭き取って下さい。
- シンナー・ベンジン・みがき粉・たわし等を使ってのお手入れは、色あせ・キズなどの原因になりますのでおやめ下さい。
- 酸性・アルカリ性洗剤または薬品(消毒液・防錆剤など)は、変色・割れ等を発生する原因となりますので使用しないで下さい。

## 公的助成制度について

### 介護保険制度の住宅改修・介護予防住宅改修について

- 介護保険のサービス詳細内容は、各市町村・広域連合で異なる場合がありますので、最寄りの介護保険相談窓口で事前にご確認ください。
- 介護保険制度では、住宅改修が必要と認められた要支援・要介護者に対して住宅改修費が支給されます。
  - ・住宅改修費の支給限度額は20万円までで、所得に応じてその9割(最高18万円) 8割(16万円)、7割(14万円)のいずれかが介護保険から支給されます。
  - ・1度の改修で全額を使わず、数度に分けて使うことも可能です。
  - ・転居されたり、介護度が3段階以上上がった場合は再度支給を受けることが可能です。
  - ・工事の前に各市町村・広域連合の介護保険窓口に申請する必要があります。詳しくは介護支援専門員またはお近くの地域包括支援センター等の介護保険相談窓口にお問い合わせください。
- 各市町村によっては、介護保険以外に独自の住宅改修助成を行っている場合があります。詳しくは各市町村福祉相談窓口にお問い合わせください。